

「ナイトマリンハイク研修」プログラム

国立江田島青少年交流の家

1 活動内容

夜の海辺を散策し、ウミホテルや夜光虫の観察を行う。
団体指導者が、研修指導を行う。

2 活動のねらい

夜の海の観察を通して、自然や環境に対する興味・関心を育くむ。

3 研修対象者

小学生以上。ただし、保護者又は引率指導者がいる場合は、実施可能。

4 研修人数

最大100人

※他団体と活動が重複する場合は調整する。

5 実施時期、研修時間、実施場所

(1) 実施時期：5月～11月（7月～9月が観察に適している）

(2) 研修時間：約120分間（移動時間を含む）

※18:00から21:00の間（ウミホテルは昼間は砂にもぐり夜に活動するため、暗くなってから採取可能）で、日没時間や団体のスケジュール等を勘案し時間調整をする。

(3) 実施場所：水泳場（交流の家から片道徒歩15分程度）

6 実施の可否

(1) 判断時期

① 17時00分（研修当日）

② 活動実施中…随時

(2) 可否基準

以下の①～⑩の場合、活動を実施しない。

① 風速5m/s以上

② 高波1m以上（白波が見受けられる状態）

③ 局地風（突風）がある場合

④ 台風の接近が予想できる場合

⑤ 強風注意報及び暴風警報が発表されている場合

⑥ 大雨注意報及び大雨警報が発表されている場合

⑦ 波浪注意報及び波浪警報が発表されている場合

⑧ 津波注意報及び津波警報が発表されている場合

⑨ 雷鳴がしている場合

⑩ その他、特に観察に不適切と判断した場合

(3) 可否の連絡方法

① 上記（1）①の場合、

交流の家職員（以下「職員」）から8（2）①の総括責任者に連絡する。

② 上記（1）②の場合

ア．総括責任者が中止を判断した場合は、直ちに総括責任者から交流の家に携帯電話で報告する。

イ．交流の家の所長が中止を判断した場合は、直ちに職員が総括責任者の携帯電話に知らせる。

※所長が不在の場合は以下のものが決定する。（次長→主任企画指導専門職→事業推進係長）



7 準備物

- (1) 個人：運動靴，タオル，飲み物，懐中電灯
- (2) 団体：ウミホテル等の生物採集をする場合
採集セット（グループ数）
 - ①広口のガラスびん（インスタントコーヒーのびん等：ふたに直径5mm程度の穴を10個ぐらいあける。）
 - ②エサ（魚のあら，おつまみ用のさきイカ，カニカマ等）
 - ③ロープ15m程度（直径5mm程度のビニールロープ等）
 - ④バケツ
 - ⑤アクアリウム用水網



- (3) 引率者：携帯電話
- (4) 交流の家（事務室）：携帯用救急バッグ（1個），救急法の基礎知識（1冊），
ハンドマイク（任意），

8 指導・安全管理

- (1) 指導者の配置・人数・役割分担
研修は「ナイトマリンハイク研修」プログラムをもとに，引率指導者が生物観察の指導・安全管理等を行う。
- (2) 引率者の配置・人数・役割分担
活動団体に次の役割を持たせる。（小規模の団体は担当を兼ねられる）
 - ①総括責任者（全体の総括，緊急時の連絡担当）・・・1名
*実際の引率指導に当たっている団長（学校長，教頭，学年主任等）
 - ②指導担当者（先導（水泳場～海洋研修館前），指導，安全管理）・・・1名以上
*事故があった場合救助に向かう引率者，緊急時に備えライフジャケットの着用
 - ③監視担当者（監視及び安全管理）・・・1名以上
 - ④救護担当者（健康観察，応急処置）・・・1名
- (3) 事故発生時の措置
 - ①総括責任者：事故の状況を把握し，交流の家に携帯電話で連絡を行う。ただし，緊急時には，直接，江田島消防署，江田島警察署，第六管区海上保安本部に連絡を入れ，その後，交流の家に連絡をする。
 - ②指導担当者：事故現場が浜辺に近い場合，浜辺からロープ付浮き輪，救助棒で救助する。
 - ③監視担当者：事故をホイッスルで直ちに知らせ，全員を安全な場所に集合するよう指示し，人数，名前を確認する。事故者を安全な場所に避難させ，総括責任者に事故の状況を報告する。
 - ④救護担当者：応急処置を行う。
事故発生の連絡が交流の家にあった場合，所長は職員を現場に派遣し，救助，応急処置に加わせるとともに，搬送用の車を手配する。緊急時には，江田島消防署，江田島警察署，第六管区海上保安本部に連絡を入れる。（①ですすでに連絡済の場合，不要）

9 展開

- (1) 「ナイトマリンハイク研修実施届」及び「宿泊者名簿」（以下「実施届等」）の提出
実施届等に必要事項を記入し，入所日までに交流の家へ提出する。
- (2) 事前打ち合せ
職員と総括責任者の打ち合せ
 - ①研修生の健康状態などに十分配慮し，体調不良者はナイトマリンハイク研修をさせないことを説明する。
団体から提出された実施届等の変更の有無を聴取し，変更がある場合は修正する。
1部コピーし，総括責任者を通じて指導担当者に渡す。（原本は交流の家事務室用）
 - ②「ナイトマリンハイク研修」プログラムを基に研修の実施方法，安全管理等を説明する。
 - ③緊急時の連絡方法として総括責任者の携帯番号を聴取する。

(3) 交流の家出発

- ①救護担当者は交流の家（事務室）から携帯用救急バッグ（1個）、緊急対応資料1、救急法の基礎知識1を受け取る。
- ②必要があれば、指導担当者は交流の家（事務室）からハンドマイク（1個）を受け取る。

(4) 事前指導（海洋研修館前）

- ①指導担当者は海洋研修館前にグループ毎に整列させる。
- ②救護担当者は健康観察をする。
- ③指導担当者は実施届等で参加者、見学者、引率者の人数、名前を確認し、変更がある場合は実施届等を修正して交流の家に報告する。変更のない場合もその旨報告する。
- ④総括責任者は目的、注意事項を説明する。
 - ア.『海洋研修館前』～『水泳場』の行き帰りについて
 - ・一般道も通るので右側を2列で歩く。（道路以外は通らない。）
 - ・途中、外灯がないので足元に気をつける。（特に側溝に落ちないように）
 - イ. 水泳場では海の中に入らない。
 - ウ. 岩場には付着した貝が多くケガをしやすいため近づかない。
 - エ. グループ単位で行動し、勝手な行動をしない。

(5) ナイトマリンハイク研修出発

- ①指導担当者はトイレの確認をする。
 - ※水泳場には、出発前に必ず済ませておく。
- ②指導担当者が先頭、最後尾には安全確認担当者がつき、グループ毎に2列縦隊で水泳場に引率する。（水泳場まで約1km）
- ③水泳場の砂浜、波打ち際等を散策する。※散策終了後、(7)へ

(6) 観察の手順

○ウミホタル観察の手順（グループ毎に実施）※ウミホタル採取をする場合

- ①エサをびんの中に入れ、ふたをしっかりと閉める。
- ②ロープの端をしっかりと持ち、周りの安全を確かめ、砂浜からびんを投げ海底へ沈める。
- ③15分～30分後にびんをゆっくり引き上げる。
- ④びんの中のウミホタルを観察する。（バケツを用意）
- ⑤びんのふたをとり、ウミホタルのいる海水をすべて水網にうつし、バケツに入れて観察する。
 - ※ウミホタルが発光するので懐中電灯は必ず消すこと。
- ⑥観察後、ウミホタルを海に返す。
- ⑦物品を洗浄し、後片付けをする。



○夜光虫観察の手順

- ①浜辺の安全を確認し、懐中電灯を消す。
- ②波のある場所等を注意して、夜光虫を観察する。

(7) ナイトマリンハイク研修実施後

- ①指導担当者は浜辺にグループ毎に整列させる。
- ②指導担当者は実施届等で参加者、見学者、引率者の人数、名前を確認するとともに、救護担当者に指示して健康観察をする。

(8) 水泳場から交流の家へ出発

指導担当者が先頭、最後尾には安全確認担当者がつき、グループ毎に2列縦隊で海洋研修館前に引率する。

(9) 帰着（海洋研修館前）

（指導担当者）

- ①就寝までの諸連絡を行い、解散する。
- ②指導担当者及び救護担当者は借用物品を交流の家（事務室）に返却するとともに、ウミホタル観察研修が終わったことを報告する。

※終了報告後、交流の家（警備員）は水泳場入口の施錠をする。

10 連絡先

江田島消防署（救急係）

一般電話番号
TEL 0823-40-0358

緊急通報用電話番号
119

江田島警察署	TEL 0823-42-0110	110
第六管区海上保安本部	TEL 082-251-5111	118
国立江田島青少年交流の家	TEL 0823-42-0663 (夜間対応番号)	